

科目名称：	音楽表現指導法実習Ⅱ	
担当者名：	朝倉 喜裕、水上 和子、上野 高裕	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
前期の音楽表現指導法実習Ⅰを継続して行う。さらに授業の後半には、幼稚園現場と学科ミュージックフェスティバルの合同練習や小道具の作成も行い、表現研究の集大成としたい。最終的には、特化成果発表の際に、合同ステージの写真展示も行う。		
授業の達成目標・到達目標		
前期の音楽表現指導法実習Ⅰを継続して行う。さらに授業の後半には、幼稚園現場と学科ミュージックフェスティバルの合同練習や小道具の作成も行い、表現研究の集大成としたい。最終的には、特化成果発表の際に、合同ステージの写真展示も行う。それらを通じて、保育現場での指導内容の実践力や指導案構築のための計画をよりの確に実践する力を形成する。		

40z@n

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)			70	30	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 (水上) 附属西南幼稚園園長代理	《経験年数1》 3年
	《内容2》 (村上) 附属西南幼稚園園長	《経験年数2》 1年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
受講態度	意欲的、自発的でありとても熱心である。	指導を受けた事を吸収しようとする。	アドバイスをすると前向きにとらえることが出来る。	欠席をしないようにし、受講態度の改善を必要とする。
表現意欲	現場で、即実践できる工夫がみられる。	アピールしようとしている。	やや積極的である。	積極的になるように努力を要する。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 後期授業内容について	シラバスの内容を確認する	40分
第2回 3歳児に向けて音楽表現についてのディスカッション	3歳児の発達を知り、活動内容を考えておく	40分
第3回 3歳児に向けて音楽表現についての指導案作成	3歳児の発達を知り、指導案に書く活動内容を考えておく	40分
第4回 3歳児に向けて音楽表現についての協働研究(グループワーク)	3歳児の発達を知り、協働して実践する準備をしておく	60分
第5回 3歳児に向けて実践	実践した内容をまとめておく	60分
第6回 4歳児に向けて音楽表現についてのディスカッション	4歳児の発達を知り、活動内容を考えておく	60分
第7回 4歳児に向けて音楽表現についての指導案の作成	4歳児の発達を知り、指導案に書く活動内容を考えておく	60分
第8回 4歳児に向けて音楽表現についての協働研究	4歳児の発達を知り、協働して実践する準備をしておく	60分
第9回 4歳児に向けて実践	実践した内容をまとめておく	60分
第10回 5歳児に向けて音楽表現についてのディスカッション	5歳児の発達を知り、活動内容を考えておく	60分
第11回 5歳児に向けて音楽表現についての指導案の作成	5歳児の発達を知り、指導案に書く活動内容を考えておく	60分
第12回 5歳児に向けて音楽表現についての協働研究	5歳児の発達を知り、協働して実践する準備をしておく	90分
第13回 5歳児に向けて実践	実践した内容をまとめておく	90分
第14回 5歳児に向けて実践	楽曲を暗譜し、必要な小道具を製作しておく	90分
第15回 5歳児と共に発表	発表した内容をまとめておく	90分
<p>事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの保育実践への指導案の作成、訪問のまとめ、保育実践協働研究になる。</p>		
成績評価の方法・基準		
<p>定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 保育現場実践演習の指導力と指導案及びミュージックフェスティバルの取組みにて評価 保育実践力+指導案70% ミュージックフェスティバル30%</p>		
課題に対するフィードバック		
指導案はその都度反省会で返却し指導を加える。		
教科書・参考書		
ミュージックフェスティバルの演奏学局のプリント、弾き歌い課題曲冊子、幼児保育の歌とリズム(音楽之友社)		